

日本におけるベートーヴェン受容

明治 40 年までの演奏記録を読む：資料と解題

福本 康之

0. はじめに

筆者は、これまでの 4 点の論考において、近代日本におけるベートーヴェン受容状況の一端を明らかにしてきた¹。これら 4 点の論考は、いずれも言説資料をもとに、ベートーヴェンとその作品が、西洋音楽という異文化の積極的な導入政策のもと、雑誌などのメディアを通してどのように伝えられたか、について述べたものであった。

今日ベートーヴェンといえば、いわゆる西洋クラシック音楽を代表する作曲家、あるいは音楽家という枠を超えて、偉大な人物としてのイメージが定着しているといつて良いであろう。だが、洋楽の導入開始後しばらくのベートーヴェンに対するイメージとは、偉大な作曲家ではあるが、その一人にすぎない扱いであった²。

日本の場合、ベートーヴェンとその作品の受容において決定的であったのは、昭和 2 年の没後 100 年祭である。明治から大正にかけては、日本の洋楽演奏家のレヴェルもまだまだ稚拙で、この昭和 2 年を前に、漸く職業オーケストラが組織されるまでにレヴェルの向上が見られ³、ここにきてベートーヴェンの代表的な作品（特に管弦楽を伴う作品や室内楽作品など）が、実際の音として響き始めたのであった⁴。そして、大正期の修養主義という時代の要請もあり、すでにヨーロッパで形成されていたベートーヴェンの楽聖イメージが、実際の音楽の響きとともに日本の社会に定着したのである。

ただ、以上のような状況は、演奏家（特に楽壇の主導的立場にあった）にせよ記事執筆者（研究者や評論家）にせよ、いずれも「啓蒙する側」の状況である。言い換えれば、これまで 4 点の論考は、「ベートーヴェン＝楽聖」なるイメージの形成が、「どのように紹介された結果であるか」を述べたものである。

¹ 福本 2000 および福本 2001、福本 2002、福本 2003 参照。

² 福本 2001：116-117 参照。

³ 大正 13 年 4 月、山田耕筰を中心に日本交響楽協会が設立され、常設職業オーケストラとしての活動が始まるが、山田ともう一人の指揮者近衛秀麿と対立から、創立後 1 年半の活動のみで、大正 15 年事実上活動停止に陥る。その後、近衛を中心に新交響楽団（現：NHK 交響楽団）が設立され、昭和 2 年同団の最初の定期演奏会が開かれた。

⁴ ベートーヴェンの主要作品のうち、ピアノ・ソナタなどはそれまでも演奏されており、久野ひさなど、ベートーヴェン演奏家と呼ばれる演奏家も存在はした。

では実際に、演奏の場におけるベートーヴェン作品の演奏状況とはどのようなものであったのか。本稿では、その点に着目してみたい。

1. 対象とする資料とその時代区分について

既に筆者は、論考（福本 2000）において、昭和 2 年のベートーヴェン没後 100 年関連の演奏会について報告した。その論考においても当初は、昭和 2 年の一年間において確認されるベートーヴェン作品の演奏事例のすべてをリストアップしようと試みたのであるが、その分量はあまりにも膨大で、没後 100 年関連の演奏会に限定せざるを得なかった。

そこで今回は、まず明治 23 年以降の演奏事例を、年代順に記録することとした。期間を明治 23 年からとしたのは、音楽を専門とする最初の雑誌がこの年創刊されたからである。そして調査の対象には、その『音楽雑誌』⁵から順に、『音楽之友』⁶、『音楽新報』⁷と、その創刊順に雑誌を選んでいった。もちろん、明治 23 年以前の演奏記録や、また音楽の専門雑誌以外のメディアにも、ベートーヴェンの作品が演奏された記録が確認される可能性は、無いとはいえない。その点を補う資料としては、西原稔の著作（西原 2000）に掲載されているデータ⁸を引用させていただいた。データの分量を考慮した結果、今回の対象は上記三誌を対象とし、年代としては明治 40 年 12 月までの演奏事例を扱うことになったことを、ここに述べておく⁹。ただし、資料の欠落もあり、上記のすべてを完全に確認できたわけではないことを断っておく¹⁰。

2. 明治 40 年までの演奏状況 演奏の機会および曲目、演奏者について

今回の資料調査からは、明治 20 年から明治 40 年までの期間で、ベートーヴェンの作品を取り上げた演奏会¹¹は、89 件確認であった。まずその状況について概観しておく。

⁵ 明治 23 年 9 月、音楽雑誌社より創刊。「おむ賀く」「於武賀久」と名称変更し、明治 31 年 2 月をもって休刊。詳細は、日本近代音楽館 1999 を参照のこと。

⁶ 明治 34 年 11 月、楽友社より創刊。のち「音楽」と名称変更し、明治 41 年より『音楽新報』と合併し『音楽界』として再出発。詳細は、日本近代音楽館 1999 を参照のこと。

⁷ 明治 37 年 2 月、音楽新報社より創刊。明治 41 年より『音楽之友』と合併し『音楽界』として再出発。詳細は、日本近代音楽館 1999 を参照のこと。

⁸ 「日比谷公園音楽堂でのベートーヴェン演奏」（西原 2000）および「表 明治・大正時代の東京音楽学校でのベートーヴェン演奏」（同）。ほかに、同書の本文中からも引用した。詳細は本稿の資料「『音楽雑誌』および『音楽新報』、『音楽之友』に記載されたベートーヴェン作品の演奏一覧」を参照のこと。

⁹ 明治 40 年には、京都十字屋より『音楽世界』が創刊されるが、今回は対象から除外した。なお明治 41 年以降の演奏事例については、引き続き稿を改めて扱う予定である。

¹⁰ 『音楽之友』第 1 巻全号については所在不明のため未確認。同誌（国立音楽大学附属図書館所蔵マイクロフィルム：原本所在＝国立国会図書館）は 2 巻以降も、1 号全部の欠本はないものの、頁の欠落などが多数ある。

¹¹ 巻末資料参照。

明治 40 年までの期間で、ベートーヴェン作品が演奏される機会は、全部で 89 件であった。そのうち、東京音楽学校関係（卒業生の組織である「同声会」も含む）の演奏会や行事が 51 件と、その半数以上を占めている。そもそも西洋音楽という異文化の導入が、音楽取調掛にて始まり、そのあとを継いだ東京音楽学校がその主導的立場¹²にあったため、この割合は妥当なものといえよう。

ただし明治 36 年までの段階では、全 31 件中東京音楽学校以外での演奏例が、わずかに 1 件であるのに対し、明治 37 年以降では全 58 件中、50 件と増大している。全 89 件というデータの標本は、必ずしも充分といえる分量ではないが、この明治 36 年から明治 37 年にかけてが、東京音楽学校以外へとベートーヴェン作品の演奏が広がり始めた一つの転換点となっていると考えてよいであろう。

また注目しておきたいのは、明治 38 年以降に見られるようになった、日比谷公園の音楽堂における軍楽隊の演奏¹³である。それまでの東京音楽学校関係での演奏といえば、ピアノ作品（主にピアノ・ソナタ）が中心であったが、この軍楽隊による演奏は、オペラ序曲などのオーケストラ作品がその中心であった。その意味で、この時代の軍楽隊による演奏の開始は、ジャンルの広がりという点で重要な意味を持つといって良い。

それ以外は、東京を含む全国各地での私設団体による演奏会での事例で、基本的にこれらは、先に述べた明治 37 年以降の演奏会に属する。そしてその曲目は、基本的にピアノ・ソナタなど、ベートーヴェン作品のなかでも、東京音楽学校で演奏される頻度の高いものである。その意味では、東京音楽学校での演奏曲目が、そのまま地方のレパートリーになった、つまり東京音楽学校から全国へとベートーヴェン作品の演奏が広まっていったと理解できよう。

またその場合、演奏家は各地元の演奏家の場合もあるが、その一方で東京音楽学校関係者が招かれ、時には「来賓¹⁴」として演奏していることが確認された。この意味でもまた、人的交流という点において、東京音楽学校から各地へと、ベートーヴェンの作品が普及していったようすが窺われる。

3. ベートーヴェン作品の演奏傾向

さて、このように東京音楽学校から各地へと広がっていったベートーヴェン作品の演奏であるが、西洋音楽全体としては、どれほどの割合を占めていたのであろうか。

東京音楽学校の定期演奏会や卒業式および同声会の演奏会では、1 回あたり 10 作前後の作品が演奏される。しかし、そのなかでベートーヴェンの作品は多くても 2、3 点で、だいたい 1 曲である。もち

¹² 東京音楽学校以外にも、洋楽導入の重要な役割を果たした組織としては、宮内省楽部やキリスト教会、軍楽隊がある。ただし、宮内省楽部が皇室行事を中心とし、キリスト教会が賛美歌を中心としていたことに鑑みれば、洋楽の一般社会への啓蒙普及効果という点では、東京音楽学校の占める位置は桁違いに多いと考えて良いだろう。なお、軍楽隊については、続く本文を参照のこと。

¹³ 巻末資料 48) 51) 58) 60) 74) 76) 77) 79) 82) 参照。

¹⁴ 巻末資料 47) 参照。

ろん、ベートーヴェンの作品を取り上げない演奏会もあるため、割合としては特に多くはない。つまりベートーヴェン作品の演奏回数が突出しているような状況ではない。筆者の資料調査において多数確認した作曲家の名前は、バッハやモーツァルト、メンデルスゾーン、シューマン、ショパンなどである。数的にもベートーヴェンより若干前後する程度である。こうした傾向は、当時の『音楽雑誌』を見ても、記事中にある重要な作曲家の一覧の類において、ベートーヴェンは含まれているものの、ベートーヴェンをテーマとした単独の記事が突出して多いような状況でもないのと同様に、ベートーヴェンもまたそうした作曲家の一人にすぎないことを示しているといえるであろう。

だが西原稔は、東京音楽学校でのベートーヴェン教育の最初の大きな節目を、明治 32 年のアウグスト・ユンケル¹⁵の着任としている¹⁶。着任後、すぐには教育の成果は出ないであろう。逆にいえば、着任後数年を経れば、その何らかの成果がでもおかしくない。とすれば、先に述べた明治 36 年から 37 年が一つの転換点となったことも、このユンケルのベートーヴェン教育の成果といえるであろう。

4. おわりに

今回の資料調査からは、明治期の日本におけるベートーヴェンの演奏状況が、明治 36~37 年を一つの節目として、上述のような変化をみせていることが明らかとなった。今回の対象範囲は、明治 40 年までであったが、同年からは京都十字屋から『音楽世界』が発行されるなど、音楽雑誌の創刊が相次ぐ。そうしたメディアの発達の中、ベートーヴェンの演奏状況は、昭和 2 年の没後百年に向かって、さらにどのように変化していくのであろうか。その点を今後の課題として、本稿を終わる。

主要参考文献

- 日本近代音楽館編 1999 『日本の音楽雑誌解題集 1』、日本近代音楽館。
- 西原稔 2000 『「楽聖」ベートーヴェンの誕生 近代国家が求めた音楽』、平凡社。
- 福本康之 2000 「日本におけるベートーヴェン受容 昭和 2 年のベートーヴェン没後 100 年祭」、国立音楽大学『音楽研究所年報』第 13 集、pp.75-92。
- 福本康之 2001 「日本におけるベートーヴェン受容 明治・大正期の音楽雑誌の記事から」、国立音楽大学『音楽研究所年報』第 14 集、pp.115-134。
- 福本康之 2002 「日本におけるベートーヴェン受容 昭和 2 年（没後 100 年祭）以降のベートーヴェン（1）」、国立音楽大学『音楽研究所年報』第 15 集、pp.155-168。
- 福本康之 2003 「日本におけるベートーヴェン受容 戦時体制（第二次世界大戦）下の状況」、国立音楽大学『音楽研究所年報』第 16 集、pp.183-198。

¹⁵ 退任は大正 2 年。

¹⁶ 西原 2000 : 139 参照。

『音楽雑誌』および『音楽新報』、『音楽之友』に記載されたベートーヴェン作品の演奏一覧¹⁷

同時期の演奏会データとして、これら三誌において確認できなかったもののうち、西原稔が『「楽聖」ベートーヴェンの誕生 近代国家が求めた音楽』（2000年，平凡社）にて報告している演奏については、リストとしての一覧性を考慮し、典拠を示した上でここに引用した。

記載データに関して

演奏に関するデータは、原則として下記（〔 〕内=項目名）の通り。各項目は「，」で区切った（データとしての「，」は無い）。

〔演奏会番号〕，〔M年.月/日〕，〔演奏会名称〕，〔会場名〕
〔楽器編成〕，〔演奏者名〕，〔作曲者表記〕，〔作品名〕
（〔雑誌名略記〕〔巻〕-〔号〕：p.〔ページ数〕）

各項目のデータ表記に関して、以下の原則に従った。

〔演奏会番号〕：順序は開催順とした。

〔M年.月/日〕：「年」に関しては元号表記とした。「去月」や「客月」および記載のないものに関しては、雑誌の発行年月日などから執筆者が換算して記載した。

〔演奏会名称〕：原則として雑誌記事の表記を転写した。

〔会場名〕：原則として雑誌記事の表記を転写した。

〔楽器編成〕：原則として雑誌記事の表記を転写した。

〔演奏者名〕：原則として雑誌記事の表記を転写した。ただし敬称は省略した。

〔作曲者表記〕：原則として雑誌記事の表記を転写した。ただし、作詞者および翻訳者などがある場合は併記し、〔 〕内にその担当内容を補記した。

〔作品名〕：原則として雑誌記事の表記を転写した。

〔雑誌名略記〕：雑誌名は略記にてそれぞれ「音」=『音楽雑誌』、「新」=『音楽新報』、「友」=『音楽之友』とした。また三誌において確認できなかったもののうち、西原稔の報告に基づくものは「（西）」と表記した。

〔巻〕及び〔号〕：原則として奥付に従ったが、明らかに誤植である場合や記載がない場合は、執筆者の判断により訂正および換算して記載した。

〔ページ数〕：原則として雑誌に印刷されたページ数に基づく。表記がない場合は、前後から判断されるものについては、執筆者が換算して記載し、そうでない場合は「-」とした。

上記データのうち、不明また判断のつかないものは、「-」にて表記した。

原点の文字が判読不可能なものに関しては、一文字につき「 」1個にて置き換えた。

その他必要に応じて「〔 〕」にて筆者による補記および「 」以下の注記を施した。

演奏記録全 89 件

- 1) M20.2/19, 卒業演奏会, 東京音楽学校
-, -, ビートーヴェン, シンフォニー

¹⁷ 雑誌名および発行会社名は、創刊当時の奥付による。

(西：p.140)

本文に作品としては第一番であるが、全楽章ではない旨の記述あり。

2) M22.6/24, 同好会発表会式, -

- , - , - , 君は神 (自然における神の栄光)

(西：p.387)

[M23.9 『音楽雑誌』創刊]

3) M29.4/18, 同聲會音樂會, 上野公園音樂學校

- , 遠山甲子, ビートーベン, ムーンライトソナタ

(音 58 : p.28 / 西 : p.387)

4) M29.7/4, 嘯災義捐音樂會, 上野公園音樂學校奏樂堂

- , 前田久八, - , アンダンテ (ソナタ第十四番第二號中)

(音 59 : p.35 / 西 : p.387)

5) M29.9/24, 長崎港活水女學校音樂演奏會, -

四人連弾, forsell 木村二夫人 青地下村二令嬢, Beethoven, Septette op.20

(音 62 : p.36)

6) M29.11/8, 同聲會秋季音樂大演奏會, 上野公園音樂學校奏樂堂

ヴァイオリン及ピアノ合奏, 幸田幸 内田菊, ビートーヴェン, ソナタ第五番

(音 63 : p.42 / 西 : p.387)

7) M30.5/8, 同聲會秋季音樂大演奏會, 上野公園音樂學校奏樂堂

ピアノ四人聯弾, 横山鹿枝 高木ちか 橋本正作 瀧廉太郎, ビートーヴェン, エグモント中のオーヴァチュア

(音 69 : p.39 / 西 : p.387)

8) M30.11/20, 同声会秋季演奏会, 東京音楽学校

- , 橘糸重, ベートーヴェン, ピアノソナタ

- , 学友会会員諸氏, ベートーヴェン 旗野十一郎 [作歌], 富士艦

(西：p.387)

9) M31.1/30, 同声会第1回集会, 東京音楽学校

- , 遠山甲, ベートーヴェン, ピアノソナタ作品 27 の 2

(西：p.387)

[M31.2 『音楽雑誌』最終号]

10) M31.4/23, 同声会春季演奏会, 東京音楽学校

ピアノ連弾, 橋本正作, 滝廉太郎, ベートーヴェン, シンフォニー第1番

- , 幸田幸, 内田菊, ベートーヴェン, ヴァイオリンソナタイ短調

(西：p.387)

- 11) M31.6/11, 学友会演奏会, 東京音楽学校
ピアノ独奏, 滝廉太郎, ベートーヴェン, ロンドー
(西: p.387)
- 12) M31.7/9, 卒業式, 東京音楽学校
唱歌, -, ベートーヴェン 里見義 [作歌], 君は神
(西: p.387)
- 13) M31.11/13, 試業演奏会, 東京音楽学校
ピアノ独奏, 上原きせ, ベートーヴェン, 進行曲
(西: p.387)
- 14) M31.11/20, 同声会秋季演奏会, 東京音楽学校
-, 内田菊, ベートーヴェン, ピアノソナタ第3番
(西: p.387)
- 15) M31.12/4, 第1回定期演奏会, 東京音楽学校
唱歌, -, ベートーヴェン 東京音楽学校 [作歌], 君は神
(西: p.387)
- 16) M32.4/21, 皇后行啓演奏会, 東京音楽学校
-, 橘糸重 (助教授), ベートーヴェン, ピアノソナタ《パテチーク》
(西: p.387)
- 17) M32.4/23, 第2回定期演奏会, 東京音楽学校
-, 橘糸重 (助教授), ベートーヴェン, ピアノソナタ《パテチーク》
(西: p.387)
- 18) M32.5/7, 同声会春季演奏会, 東京音楽学校
-, 幸田幸, 山県きく, ベートーヴェン, ヴァイオリンソナタ
ピアノ独奏, 滝廉太郎, ベートーヴェン, ヴァリエーション
(西: p.387)
- 19) M32.11/25&26, 第3回定期演奏会, 東京音楽学校
-, 滝廉太郎 (研究生), ベートーヴェン, ピアノソナタ
-, アウグスト・ユンケル、フォン・コイベル, ベートーヴェン, ヴァイオリンソナタ (西: p.387)
- 20) M34.6/1, 試業演奏会, 東京音楽学校
ピアノ, 原みち, ベートーヴェン, ソナティネ
(西: p.386)
- 21) M34.7/6, 卒業式, 東京音楽学校
合唱, -, ベートーヴェン 旗野十一郎 [作歌], 別情
(西: p.387)

- 22) M35.2/25, 学友会演奏会, 東京音楽学校
 - , 天野あい, ベートーヴェン, ピアノソナタ
 (西: p.386)
- 23) M35.3/15, - , 東京音楽学校
 - , ユンケル、ケーベル, ベートーヴェン, ヴァイオリンソナタ
 (西: p.386)
- 24) M35.3/29, 甲種師範科卒業式, 東京音楽学校
 ピアノ, 林タケエ, ベートーヴェン, ソナチナ
 合唱, - , ベートーヴェン 旗野十一郎 [作歌], 別情
 (西: p.386)
- 25) M35.5/6, 第3回皇后行啓演奏会, 東京音楽学校
 - , フォン・コイーベル, ベートーヴェン, ムーンライトソナタ
 (西: p.386)
- 26) M35.11/16, 第7回定期演奏会, 東京音楽学校
 ピアノ, 小林禮, ベートーヴェン, ゼクス・ヴァリアチオネン
 (西: p.386)
- 27) M36.3/8, 学友会演奏会, 東京音楽学校
 - , 栗原きん, ベートーヴェン, ピアノソナタ作品 19、第1楽章
 - , 田中やそ, ベートーヴェン, ピアノソナタ作品 13、終楽章
 (西: p.386)
- 28) M36.10/5, 東京音楽学校設立記念会, 東京音楽学校
 - , 天野あい, ベートーヴェン, ピアノソナタ
 (西: p.386)
- 29) M36.11/14, 試業演奏会, 東京音楽学校
 オルガン, 木田アドルフ, ベートーヴェン, フュネラル・マーチ
 (西: p.386)
- 30) M36.12/5&6, 第9回定期演奏会, 東京音楽学校
 - , 上原喜勢, ベートーヴェン, ピアノソナタ
 - , 神戸絢(助教授), ベートーヴェン, ピアノソナタ《アパシオナータ》
 (西: p.386)
- 31) M36.12/-, 音楽学校学友会演奏会, -
 ピアノ独奏, 上原幾世, ベートーヴェン, ソナタ
 ピアノ独奏, 高橋とよ, ベートーヴェン, ソナタ
 (友 5-2: p.58 / 西: p.386)

- 32) M37.2/20, 学友会演奏会, 東京音楽学校
 - , 栗原きん, ベートーヴェン, ピアノソナタ
 (西: p.386)
- 33) M37.5/28, 試業演奏会, 東京音楽学校
 - , 前田滋樹, ベートーヴェン, ピアノソナタ
 (西: p.386)
- 34) M37.7/10, 卒業式, 東京音楽学校
 - , 栗原きん, ベートーヴェン, ピアノソナタ八短調、フィナーレ
 (西: p.386)
- 35) M37.8/14, 音楽遊戯協会第二回夏季講習会証明書授與式, -
 ピアノ獨奏, 加藤愛子, ベートーヴェン, ソナタ
 (新 1-5: pp.34-35)
- 36) M37.10/29&30, 東京音楽学校学友会恤兵音楽會, 同校奏樂堂
 ピアノ獨奏, 通常會員天野アイ, ベートーヴェン, ソナタ
 (新 1-6: p.27 / 友 7-1: p.39 / 西: p.386)
 『音楽新報』には演奏者名に「通常」の記述なし。
- 37) M37.12/4, 東京音楽学校演奏會, 同校奏樂堂
 - , - , ベートーヴェン, クレルヘンスリード
 (友 7-3: p.24 / 西: p.386)
 作曲者のあとに「リスト調」との記述あり
 西原の著作では、3日にも開催された旨の記述あり。
- 38) M37.12/4&5, 静岡恤兵音楽會, 同市メソジスト教會
 ピアノ獨弾, 澤田孝一, ベートーヴェン, グローブ
 (友 7-2: p.34)
- 39) M37.12/-, 吊祭會兼月次演奏會, -
 コルネット獨奏, 渡邊康三, ベートーヴェン, エグモントの一節
 (友 7-4: p.38 / 西: p.386)
- 40) M38.1/30, 石川縣音楽研究會主催第三會奉公音楽演奏會, 金澤市會議事堂
 オルガン連奏, ミス、ジョースト ミス、ギボンス, ベートーヴェン, シムフォニー
 (新 2-1: p.41 / 友 7-5: p.41)
 『音楽新報』には演奏者名の記載なし
- 41) M38.2/18, 松本樂器店祝捷音楽會, 神田青年會館
 ピアノ獨弾, 松本樂器店員松本廣, ベートーヴェン, ソナチネ
 (新 2-1: p.38 / 友 7-5: p.36)
 『音楽新報』には演奏者名に「松本樂器店員」との記述なし

- 42) M38.2/25&26 東京音楽学校学友会祝捷音乐会
独奏，小室干笑，ベートーヴェン，フェースフルチヨンニ
オーケストラ，コーラス，會員，ベートーヴェン作曲 東京音楽学校作歌，君は神
(新 2-1 : p.39 / 友 7-5 : p.39 / 西 : p.385)
- 43) M38.5/2，ベートーヴェン、ソサイティ音乐会，横濱山手公会堂
絃樂四部合奏，ユンケル、幸田幸子 幸田延子、デビス，ベートーヴェン，エフ、長調（オパス十八）
獨唱，藤井環夫人，モザート，アリア（オペラ、フィガロ中の一節）
ヴァイオリン連奏，ユンケル、幸田幸子，ヘンデル，ソナタ
ピアノ，ハイドリシヒ，ブラーム，五部合奏曲
(友 8-2 : p.42)
ベートーヴェンの名を關した団体による演奏会であるため、ベートーヴェン以外の作品も記載した。
- 44) M38.5/13&14，同仁會寄附音乐会，東京音楽学校
ピアノ及絃樂合奏，コイベル 幸田幸子 ユンケル デビス，ベートーベン，エスツール
(新 2-4 : pp.37-38)
- 45) M38.6/10，帝國義勇艦隊寄附音乐会（長野）， -
コル子ツト獨奏，スカツダ，ビトーベン，リストコンポスターン
(友 8-3 : pp.55-56)
- 46) M38.7/8，東京音楽学校卒業式， -
ピアノ獨奏，器樂部卒業生 天野アイ，ベートンヴェン，ソナタ
(新 2-5 : p.33 / 友 8-4 : pp.62-63 / 西 : p.385)
『音楽新報』での演奏会名は「東京音楽学校卒業證書授與式」
- 47) M38.-/-，樂友社神戸支部音楽舞蹈演奏會， -
ピアノ獨奏，來賓 瀧川英一，ベートーヴェン，ソナタ
(友 8-5 : p.88)
- 48) M38.9/2，日比谷樂堂第三回演奏，日比谷樂堂
-，陸軍戸山學校軍樂隊，ベトホベエン，大序エグモン
(友 8-6 : p.59)
- 49) M38.9/-，長野音楽研究会主催長野音楽演奏會， -
女聲三部， -，ビートフエン，フェイスフル、ジョンニー
(友 8-6 : p.61)
- 50) M38.10/28&29，東京音楽学校秋季音乐会， -
合唱， -，ベートーフエン 武島又次郎 [作歌]，菊の盃
(新 2-8 : p.39 / 西 : p.385)
- 51) M38.11/25， -，日比谷公園音楽堂
-，海軍軍樂隊， -，祭典歌劇《ステファン王》
(西 : p.194)

- 52) M39.1/27&28, モーツァルト誕生記念音楽会, 東京音楽学校
- , 川久保美須須, ベートーヴェン, ピアノソナタ イ長調
- , 田中ロク, ベートーヴェン, ピアノソナタ 二長調
(西: p.385)
- 53) M39.1/30, 慈善音楽会, 金澤市金谷館
合唱, 本會々員, ヴェーベーン, 何處へゆく
(友 9-5: p.41)
- 54) M39.2/11, 成樂會發會式, 徳島高等女學校
ヴァイオリン獨奏, 君塚正志, ベートーヴェン, -
(友 9-5: p.39)
- 55) M39.3/6, ユニテリアン弘道會惟一俱樂部第一回演奏會, -
オルガン獨奏, 部員小寺義強, ベートーヴェン, トラウエル、マルシュ
獨唱, 部員中村泰一, ベートーヴェン, くれがし[作歌], 松の葉
(友 9-6: p.45)
- 56) M39.3/21, 「社交夫人」音楽会, 神田青年會館
獨唱, 外山國彦, ベートーヴェン, アデライデ
(新 3-3: p.42)
会場名の「社」は旧字体。
- 57) M39.4/3, 東京音楽院芙蓉會第一回春季大會, 東京音楽院楼上
ピアノ獨奏, 來賓澤田柳吉, ベートーヴェン, ソナタ
(友 10-1: pp.55-56)
会場名の「楼」は旧字体
- 58) M39.4/15, - , 日比谷樂堂
- , 海軍々樂隊, ベートーヴェン, 詩劇「ステツファン王」序曲
(新 3-4: p.41 / 友 10-2: pp.51-52 / 西: p.194)
- 59) M39.4/22, 石川縣教育會東北凶作地方學童救濟慈善音楽会, 第四高等學校
オルガン獨奏, 新清次郎, ヴェーベーン, アレグロ
(友 10-1: pp.57-58)
- 60) M39.5/13, - , 日比谷樂堂
- , 海軍々樂隊, ベートーヴェン, 詩劇「雅典府の古跡」祭典行進曲
(新 3-5: p.33)
- 61) M39.5/20, 京都音楽會第八回演奏會, 府立第一高等女學校
- , 土田むつ子, 鷲尾しげ子, ベートーヴェン, ピアノ連弾ソナタ(アンダンテの部)
(友 10-2: pp.52-53)
- 62) M39.6/2, 樂苑會第一回演奏會, 美土代青年會館
- , 小林禮, ベートーヴェン, 月光ソナタ

(新 3-6 : p.32)

- 63) M39.6/9, 試業演奏会, 東京音楽学校
オルガン, 稲沢りう, ベートーヴェン, アダジオ
- , 高折宮次, ベートーヴェン, ヴァリエーション
オルガン, 飯田隆健, ベートーヴェン, アダジオ
(西 : p.385)
- 64) M39.7/7, 東京音楽学校卒業式, -
ピアノ独奏, 器楽部卒業生 川久保美須須, ベートーヴェン, ソナタ
ピアノ独奏, 器楽部卒業生 澤田柳吉, ベートーヴェン, ソナタ
ピアノ独奏, 器楽部卒業生 久野ひさ, ベートーヴェン, コンセルト
(新 3-7 : p.39 / 西 : p.385)
- 65) M39.7/7&8, 關西協樂會演奏會, 大阪中之島公會堂 [7日] 神戸神港俱樂部 [8日]
ピアノ独奏, 瀧川英一 (神戸), ビートウベン, ソナタ、パテチック
(友 10-4 : pp.47-48)
両日とも同一プログラム。
記事本文に主催団体の構成員は東京音楽学校出身者である旨の記述あり。
- 66) M39.-/-, 樂友社前橋支部演奏會, 前橋神明町廿八 [会場の住所と思われる]
ピアノ独奏, 長尾せい子, ベートーヴェン, ソナタ
(友 10-5 : pp.51-52)
- 67) M39.10/28, 明治音樂會, -
ピアノ、バイオリン合奏, ドブラウイチ、マツキー, ビートーベン, ソナタ
(新 3-10 : p.40)
- 68) M39.11/10&11, 東京音楽学校音楽演奏會, -
合唱, - , ベートーヴェン, 武島又次郎 [作歌], 菊の盃
(新 3-10 : p.39 / 友 11-2 : pp.24-26 / 西 : p.385)
『音楽之友』の日付は 11 日のみ
- 69) M.39.11/17, 廣島縣師範學校秋季音樂演奏會, -
ピアノ独奏, 成田教諭, ベートーウエン, ソナタ
(友 11-4 : p.28)
- 70) M39.11/25, 東京音楽院芙蓉會男子部第三回例會, -
オルガン独奏, - , ベートーヴェン, アダジオ
(友 11-2 : p.30)
- 71) M39.12/2, 大阪音楽協會演奏會第一回演奏會, 中の島公會堂 [大阪]
ピアノ独奏, 會員栗原欣子, ベートーベン, ソナタ
(新 4-1 : p.43 / 友 11-2 : pp.30-31)
- 72) M40.1/30, お伽音樂會, 神田青年館

- , - , - , 合唱「菊の盃」
(友 11-5 : pp.28-29)
プログラム中に作曲者名の記載はないが、本文記事に「ベートヴェン作」との記載あり。

73) M40.2/2, 宮城音楽講習會, -
ヴァイオリン獨奏, 北郷潮, ベートーヴェン, (オペラ廿六)トラウエルマーチ
(友 11-6 : pp.28-29)

74) M40.3/14, - , 日比谷公園
- , - , ベートーヴェン, 願望 ヴァルス曲
(友 12-1 : pp.32-33)

75) M40.3/23, 東京音楽學校卒業式, -
合唱, - , ベートーヴェン 武島又次郎 [作歌], 菊の盃
(新 4-4 : p.34 / 友 11-6 : p.27 / 西 : p.385)

76) M40.4/14, - , 日比谷公園音楽堂
- , 陸軍軍樂隊, - , 小鈴劇の大序《願望》
(西 : p.194)

77) M40.4/26, - , 日比谷
- , 海軍軍樂隊, ベートーヴェン, 悲劇「エグモント」大序曲
(新 4-6 : p.34)

78) M40.4/27&28, 東京音楽學校春季演奏會, -
ピアノ管絃合奏, 研究生久野ひさ, ベートーヴェン, 司伴樂
(新 4-5 : p.47 / 友 12-1 : pp.31-32 / 西 : p.385)
作品名に関しては、『音楽之友』本文記事に「第一番」との記載あり。

79) M40.5/12, - , 日比谷公園
- , 陸軍軍樂隊, ベートーヴェン, フィデリオ大序
- , 陸軍軍樂隊, ベートーヴェン, 悲劇「エグモント」大序曲
(友 12-2 : p.28 / 西 : p.194)
西原の著作では、「フィデリオ大序」のみとなっている。

80) M40.5/15, 全国教育家大会参列者招待音乐会, 東京音楽学校
- , 久野ひさ, ベートーヴェン, ピアノ司伴樂(協奏曲)
(西 : p.385)

81) M40.5/24, 學生聯合音楽會, -
合唱, - , ベエトオフェン, アウス、デル、ナツウル
(友 12-2 : p.33)

82) M40.5/26, - , 日比谷公園音楽堂
- , 海軍軍樂隊, - , 悲劇《エグモント》大序曲
(西 : p.194)

- 83) M40.6/1, 試業演奏会, 東京音楽学校
 - , 古市喜子, ベートーヴェン, ピアノソナタ
 (西: p.385)
- 84) M40.7/20, - , 日比谷
 - , 陸軍軍楽隊, ベートーヴェン, 禮曲
 - , 陸軍軍楽隊, ベートーヴェン, 管絃式 アデライデ
 (新 4-8: p.41 [予告記事] / 新 4-9: pp.39-40 / 西: p.194)
 「 禮曲」(新 4-9 では「哀悼曲」) に関しては両記事本文に故吉本海軍軍楽長の追悼のための演奏である旨の記述あり。
 新 4-9 には「アデライデ」の記載なし。
 西原の著作では、13 日付となっているが、新 4-9 には 20 日に延期となった旨の記載あり。
- 85) M40.8/3, 帝國音樂會, 神田青年會館
 ピアノ獨弾, 澤田柳吉, Beethoven, Sonat. : pathetique
 (新 4-7: p.42)
- 86) M40.10/1, 女子音樂學校創立五周年紀念式, 同校講堂
 ピアノ, 美吉たつ, ベートーベン, ソナタ
 (新 4-11: p.41)
- 87) M40.10/4, 学友会演奏会, 東京音楽学校
 弦楽四部合奏, 多、川上、大塚、山田, ベートーヴェン, メヌエット
 - , 沢田柳吉, ベートーヴェン, ピアノソナタ
 (西: p.385)
- 88) M40.10/26&27, あやめ會慈善音樂會, 東京音楽學校
 - , ヘルマン、ハイドリッヒ、アウグスト、ユンケル, ベートーベン, ソナタ
 (友 13-1: p.35)
- 89) M40.12/14&15, 第 17 回定期演奏会, 東京音楽学校
 弦楽四部, ユンケル、ハイドリヒ、幸田延、ヴェルクマイステル, ベートーヴェン, 作品 18 の 4 八短調
 (西: p.385)

[M41.1 より 『音楽之友』 及び 『音楽新報』、 『音楽界』 として合併新創刊]